

「新たなサービスに向けて」

建築家鈴木慶治氏（共同建築設計事務所）は、「建築・空間そのものを治療手段のひとつ」と位置づけ、来院しやすい、地域の一部だと感じられる病院づくりを開拓してきました。彼の技術そして独特のセンスと当院のニーズが出会った新館をフルに生かして、今新しいサービスを展開しています。

デイケアセンター… 音楽室と機能的な 調理室（精神科デイケア）

デイケアセンターの新築移転に伴って、多目的に使える部屋やオープンスペースが増え、プログラムのバリエーションも豊富になりました。

音楽室（写真①）は防音に配慮した素材を室内に使用して、ギター、シンセサイザーなどの楽器や音響設備を完備し、本格的な演奏にも対応できます。現在はギター・リコーダー・プログラムが始まり、カラオケにも使われています。音楽同好会をス

タートし、音楽を通じて思い出に花を咲かせることもあり、メンバー同士やメンバー・スタッフ間の交流の場となっています。広々とした調理室（写真②）では、1日調理器がビルトイン。業務用の食器乾燥機・まな板乾燥機も装備され、衛生的に本格的な調理が楽しめます。予めメニューが中心になって考えたレシピで、買い物から調理・試食・後片付けまでを協力し合いながら和気あいあいと行っている様子には見学者も集まります。最近ではヘルシー志向で野菜や豆腐などを使い、季節を盛り込んだ料理が多く、帰宅後も作ってみたいくなります。

陶芸コーナー… 土に還る 作業療法プログラム

人間の生活・文化と関わりをもち発展してきた陶芸は、つかむ・ちぎる・丸める・つぶす・伸ばす・こするなどの動作を通じて粘土を操作し、形を作り上げます。土に触れ知覚系を刺激することで、精神的に落ち着きが得られると言われています。当院でも大型の窯（写真③）を備えた陶芸コーナーが新設され、昨年11月より作業療法プログラムとして導入しました。参加者は初めて陶芸をする方が多く、

個室… 治療の場を分ける大切さ

61床ある個室には、明るい木目を基調とした家具を配置し、窓から四季折々の景色がのぞめます。

特に重症な時には、精神保健指定医の判断のもと保護室（写真④⑤）を使用することがあります。従来のこの部屋のイメージが、精神科病院の印象に影をおとし

ていた一因でもありました。実際臨床では、現実検討能力が乏しい方にとって、外界からの刺激遮断が有効であり治療を助ける場合があります。短期間患者さまの身を守ることが最大の目的ですが、その間もできる限りプライバシーとアメニティを確保したいと考えました。病状によって、ドアや壁面の開閉方法で3タイプの使い方ができる保護室と保護室ゾーン専用デイルーム（写真⑥）は、素材と構造を吟味し、新病棟の雰囲気や延長した明るい空間となりました。患者さまの心に一生残る急性期にも、納得していただける治療に最善を尽くしていきます。

喫茶… セドナオーガニックカフェ

エントランスを入るとコーヒーの香りが…。今年1月に喫茶コーナー（写真⑦⑧）がオープンしました。昨年の喫茶計画中に発見された新惑星「Sedona」にあやかった喫茶名。入院中の

理容室… 更に利用しやすく

リフレッシュに、外来待ちやバス待ちの時間にと、気軽にご利用いただいています。エスプレッソタイプのコーヒーと手作りにんじんケーキ、ココア、ハーブティが人気で、ケーキはティクアウトができます。福祉的就労の場としても準備中です。

従来空きスペースを利用して行ってきた入院患者さまの理容は、新館に専用椅子を備えた理容室ができたことで、ご利用いただきやすくなりました。週に3回、福祉施設などを専門に訪問する馴染みの理容師が、お手ごろな価格でカット、パーマ、カラーを提供しています。月に150名前後の方が利用されています。（写真⑨）

これからもみなさまに安心していただける医療と、より親密なサービスを充実させるためわたしたちは努力してまいります。

